

独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO 登別病院通信

Japan
Community
Healthcare
Organization

発行日 2024年1月

NO.24



シニア写真同好会 撮影者 鳴海 明様

今月号の内容

- 新年のご挨拶
- JCHO 地域医療総合医学会
- 地域協議会の開催 4年ぶりの対面開催が実現!!
- 整形外科症例検討会に参加して
- 介護予防活動リーダー育成研修に参加して
- BLS (一時救命処置) 研修に参加して
- 外来診療のご案内





がりょうてんせい
臥竜点睛

— 2024年(令和6年)辰年 —

新年あけましておめでとうございます。本年が皆様にとって良き一年であることを心より願っております。

2024年(令和6年)は辰年です。辰(竜)は雲を起し雨を呼ぶ伝説の動物です。神社の彫物などに多く見られ、力強く空へ登ってゆく姿が目に見えます。

未だ終息しきれない新型コロナのパンデミック、終わりの見えない戦争、急速に進む地球温暖化と異常気象などなど、ここ数年は地を這うような厳しい状況が続いてきました。今年こそ世界が、登り竜のように平和な大空へ向かって行ければと願っております。

JCHO登別病院も新築移転して5年目に入ります。この間、地域の皆様のおかげで、外来・入院・健診の各部門で利用者数は順調に伸びてきました。職員一同、感謝の気持ちをもち更なる努力を重ねていく所存です。

「臥竜点睛を欠く」という言葉があります。寺の壁に描いた白竜の壁画に、最後の睛(ひとみ)を描き入れたところ、たちまち風雲生じて白竜が天へ昇っていったという故事から、物事



院長
石川 典俊

の眼目となる最後の仕上げ(臥竜点睛)を欠いてはならないという教えです。

JCHO登別病院も建物は新しくなり、医療機器も最新のものを備え、外形的には立派な病院になりました。そこに、きちんと睛(ひとみ)が入っているのか、社会的使命感や人間的優しさ、働く喜びなどがスタッフ達の心の中に育っているのか、あらためて確認していきたいと考えています。

JCHO登別病院がこれからも地域に欠かせない存在となるよう、ご指導ご鞭撻のほど、本年もよろしくお願い申し上げます。





第8回JCHO地域医療総合医学会での研究発表を終えて

リハビリテーション室 理学療法士 大塚 峻 祐

第8回JCHO地域医療総合医学会は、2023年12月8日～9日の2日間に渡り、三重県総合文化センターで、多くの参加者が来場し、とても明るく賑やかな雰囲気の中開催されました。

私は今回、「胸椎・腰椎圧迫骨折の予後予測の検討」について研究発表を行いました。当院は胸椎・腰椎圧迫骨折を受傷した患者様が入院され、リハビリテーションを実施する機会が多くあります。そこで、入院日数や身体機能の獲得までの期間が入院時の受傷状態から判断できないかと考え研究を行いました。発表時間は6分間、質疑応答2分間と短い発表でしたが、たくさんの質問を頂くことができ、とても充実した発表となりました。



2年連続で参加させていただき、とても貴重な経験となりました。今後も、研究活動を継続して行い質の高いリハビリテーションを提供できるよう努力していききたいと思います。

第8回JCHO地域医療総合医学会に参加して

リハビリテーション室 理学療法士 吉田 龍 樹

三重県の津市は鰻（ウナギ）が有名で、駅から会場までの道のりには何件もの鰻屋がありました。

今回は初めてJCHO学会に参加させていただき、当院の先輩や他病院の演題発表を間近で聞くことができ、とてもいい経験となりました。質疑応答を合わせて8分間の発表となっているため、一つ一つの発表がすごく短く感じました。



今年の第9回JCHO地域医療総合医学会は宮城県仙台市での開催予定です。私は、発表者として参加予定です。今回、たくさんの発表を聞くことができた経験を活かし、JCHO登別病院の代表として恥じない発表ができるように取り組んでいきます。仙台市は、ずんだや笹かま、牛タンが有名で非常に魅力的な街となっていますので、こちらも楽しみにしております。





地域協議会の開催 4年ぶりの対面開催が実現!!

地域医療連携室 室長 伊藤 洋介

JCHO病院では「施設利用者やその他関係者の意見を聴いて、地域の実情に応じた運営に努めること」とされており、平成28年から「地域協議会」を年2回開催しております。

昨年の3月までは、新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催としておりましたが、2023年10月19日に行政・医師会・消防関係者・町内会代表の皆様で構成された構成員の方々とともに「第16回 JCHO登別病院 地域協議会」を開催いたしました。



当院からは入院・外来の利用状況、手術・健診件数や外来診療体制、コロナ対策などについて業務報告をさせていただきました。質疑応答では、構成員の皆様から、当院の救急対応の現状やコロナワクチン接種、かかりつけ医の対応などについて、当院を利用されている白老町民の方々からは、バスの運用を希望されていることなどたくさんのご質問やご意見をお聞きすることができました。

JCHOは、《地域の住民、行政、医療機関と連携し 地域医療の改革を進め 安心して暮らせる地域づくりに貢献します》との理念を掲げております。登別市、白老町は高齢化も進んでいる状況です。当院は地域医療の要として、地域協議会のような場で近隣病院や住民の方などからの貴重なご意見を伺いながら、医療サービスの質向上に向けて取り組んでいくことが大切と感じました。





整形外科症例検討会に参加して

外来・OP室 佐原華江

2023年10月26日、当院にて3年ぶりに整形外科症例検討会が行われ、病院スタッフ45名、登別消防12名、白老消防5名と多くの方々が参加されました。



症例検討会は「消防機関とJCHO登別病院が症例検討を通じ情報を共有するとともに、日常的に顔の見える関係を構築する中で、円滑な搬送と受け入れにつなげる」ことを目的として開催されています。

当院整形外科医師から2例、登別、白老消防から1例ずつ症例の発表がありました。整形外科からの2例は大腿骨近位端骨折と橈骨遠位端骨折の症例で、レントゲンやCT画像なども紹介され、とてもわかりやすく、知識を深めることができました。また、消防職員からの症例では意見交換も行われ、情報を共有することができたのではないかと感じました。

症例を通して、医療に携わる者として患者を搬送する消防隊、搬送した患者様を治療する医師ともに、患者様にとってなにが最善なのかという共通の思いを感じました。私も、看護師として外来の患者様、救急搬送された患者様の状態観察と質の高い看護ケアを考えながら日々の看護を行っていきたいと思います。

地域医療、地域包括ケアの要として地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えていけるよう引き続き、消防機関の皆さまと連携しながら、円滑な搬送、受け入れを目指していきたいと思います。





介護予防活動リーダー育成研修に参加して

リハビリテーション室 主任理学療法士 大西 拓哉

当院のリハビリテーション室には保健活動委員会があり、外部活動班として、登別市の介護予防事業に参加しております。私は、その中の一つである『介護予防活動リーダー育成研修』（全5回）に参加しました。本研修の目的としては、『市民が中心となり、体操や筋トレなど、介護予防の取り組みを地域で行えるよう支援すること』です。



私は、理学療法士として、効果的・効率的な介護予防の取り組みができるように、講義や体操指導を行いました。今回はその中でも、登別市で作成した『かるやか体操♪リズム編』について紹介したいと思います。

かるやか体操♪リズム編とは、365歩のマーチ（水前寺清子氏）に合わせ、体幹と下肢の筋トレやストレッチを中心とした体操です。全部で10個の運動があり、3分程度で実施します。

(以下、実際の体操)

間 奏	足 踏 み
しあわせは 歩いてこない だから歩いて ゆくんだね 一日一步 三日で三歩 三歩進んで 二歩下がる	[太もも後ろとふくらはぎのストレッチ] 右伸ばす(6拍)→戻す(2拍) 左伸ばす(6拍)→戻す(2拍) *繰り返し 全4回

参加者の皆さんは、意欲が高く、体操を繰り返し行うことで、すぐに習得されておりました。私達指導する側も、一つ一つの体操の目的や効果（例えば、効果のある場所はふくらはぎで、軽く反動をつけましょう！等）について、実際に自分の身体で感じてもらえるように意識して実践しております。

地域のリハビリ専門職として、地域住民の皆さんの健康増進や、サロンや町内会での活動を活性化していくことで、より元気な町づくりの一助になれるように、今後も積極的に参加しようと思います！





BLS(一時救命処置)研修に参加して

東病棟 看護師 藤澤花菜

2023年11月10日に行われた院内BLS研修に参加し、JCHO北海道病院 急性・重症患者看護専門看護師の小川謙講師より、一次救命処置の基本的な知識と手順を講義と実演で詳しく学ぶ事が出来ました。

患者様の異変に早く気づき、報告・連絡・相談の大切さ、チームや多職種とコミュニケーションを図り、リーダーシップをとっていくことを学びました。また、日々の患者様の観察やアセスメントの大切さや使用する物品の位置や使用方法、手順を再度見直し、いつでも使用できるよう意識していこうと思いました。

私は以前勤めていた病院でもBLS研修を受講したり、実際に急変時対応でAEDを使用しました。実際に急変時に対応すると、焦ってしまい気道確保が上手く出来なかったり、適切にマスクが当てられていない経験がありました。AEDは使用中に周囲の確認が不十分で二次被害が起きてしまう可能性もあるため、適切な判断と言動が出来るよう、シミュレーションを行い、様々なパターンを想定し復習していかなければならないと感じました。

今後、病棟でも【急変時の対応】について勉強会があるため、講義の資料を参考にして、病棟で起こりうる場面を想定しBLSのstep1(意識の確認・人や物の確保)、step2(呼吸・循環のバイタルの確認、胸骨圧迫の実施)、step3(換気の実施、AEDの使用)を意識しながら、職員が対応できるよう演習を実践していきます。



● 外来診療のご案内 ●

診療受付時間 8時30分～11時30分
 診療開始時間 9時（脳神経内科9時30分）～

● 外来診療担当医

		月	火	水	木	金
整形外科	午前	小澤 慶一	小澤 慶一	江崎 克樹	小澤 慶一 (予約10時迄)	江崎 克樹
		金江 剛	江崎 克樹	金江 剛	松本 洋太	金江 剛
				松本 洋太		松本 洋太
内科	午前	石川 典俊	石川 典俊	石川 典俊 最終水曜 糖尿病専門医 國崎 哲	石川 典俊	石川 典俊
			代田 充	代田 充	代田 充 (第2・第4)	横山 豊治
脳神経内科	午前	/			出張医	/
泌尿器科	午前	/			出張医	/

● 診療体制が変更となる場合があります。その際は院内告知やホームページ上でお知らせします。



ジェイコー JCHO 登別病院

独立行政法人地域医療機能推進機構登別病院

〒059-0598 登別市登別東町3丁目10番地22

TEL (0143) 80-1115 FAX (0143) 80-2250

URL : <https://noboribetsu.jcho.go.jp>

Mail : main@noboribetsu.jcho.go.jp

JCHO登別病院通信 No.24

2024年1月発行

出版責任者 院長 石川 典俊

編集長 事務長 長尾 真人

〈各交通機関〉

- JR登別駅下車（特急列車停車）（徒歩10分）
- 札幌－室蘭高速バス登別下車（徒歩7分）
- 道央自動車道：登別東インターより2分